

☆地域包括ケアふじえだプロジェクト☆

平成31年3月11日 VOL. 95

認知症の人と家族の声を中心に施策を展開中！！

平成30年度から、「認知症の人と家族の声」を施策に反映させることを基本として【すまいと住まい方】【支える】【つなぐ】【防ぐ】の4つの視点から認知症支援を展開しています。
平成29年度から実施している“この指止まれ大作戦(認知症の人と家族の支援を一緒に考える会)”では今年度、ケアマネジャーと共に、認知症の人と家族の声を聴く体制づくりと、本人の声から望むケアの実現に向けた取り組みを推進してきました。

日時	内容
第1回 10月23日 約80人参加	【参加者：家族とケアマネジャー】 ・家族の声を聴く【こころの声アンケートの実施】 ・家族への支援を考える
第2回 11月20日 家族7人参加	【参加者：家族】 ・第1回で家族が話をした感想や、家族同士で思いを共有し、振り返る機会を設け、“家族の声”をさらに深める
第3回 3月1日 約90人参加	【参加者：ケアマネジャー・認知症キャラバンメイト】 藤枝市介護支援研究会・地域包括ケア推進課共催 『一足先に認知症になった皆さんからいただいた思いをあなたへ～「聴く力」がアクション能動につながるように～』 登壇者：当事者の立場から 三浦 繁雄 氏 講師：名古屋市認知症相談支援センター 鬼頭 史樹 氏



第1回 グループワークの様子



第1回 ケアマネジャーの感想

- ・認知症の人が住みやすいように、地域への普及啓発や地域づくりの必要性を感じた、取り組みたい
- ・これだけ介護保険や認知症のことが言われているのに、皆に周知されていないものなんだと感じた
- ・複数で家族の声を聴くことで気づきやアイデアに結び付けた
- ・最期をどうするかについて考える必要性を再確認した ・プランありきではない支援の必要性を感じた

第2回 家族の感想

- ・思いっきり自分のことが言えてうれしかった。自分の経験を知ってもらい、「介護マーク」のこと等知ってもらうことが少しでも役に立ったと思えた。心が楽になった。この会を次につなげてほしい。
- ・楽しかった。話したことで自分の考えが分かった。(介護をされていて)うれしかったことは最初は出てこなかったが、話し合う中で見つけられてうれしかった。

第3回

～三浦繁雄氏からメッセージ～

「認知症と診断されると“危ないからやってはいけない、こうしてあげよう”等、周りは本人を守ろうとする。でも、本人にもリスクを負う権利がある。リスクを恐れなくて本人のやりたいことは本人の責任でやらせてあげよう」
 「(当事者の声を)聴いてもらわないと本人が見えない、聴いたら、我が事として何らかの形でアクションに繋げてほしい」

鬼頭 史樹氏から、「当事者とともに作る地域」をテーマに、当事者同士が出会い安心して話ができる当たり前の環境をいかに地域に作るか、また、本人とともに、地域づくりをしていく人(=パートナー)が増えていくことが大切であると講演をいただきました。平成31年度、職種や立場等の領域を越えた地域での繋がりを目指し、引き続き認知症の人と家族の声を中心に支援を展開していきます。